

新 生



東北新生園入所者自治会

令和元年十二月十日印刷
令和元年十二月二十日発行

新生第七十一巻 第四号

新 生

令和元年十二月十日印刷
令和元年十二月二十日発行

第七十一巻 第四号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男21名 女34名 計55名
職員定員数	152名（平成31年4月1日現在）
園長	医学博士 横田 隆

東北新生園交通案内図



令和元年度 祝 敬老の集い
ティーナ・カリーナひとり昭和歌謡祭
— 令和元年9月13日 —



園内日誌

令和元年 七月～九月

《七 月》

四日 三遊亭遊馬落語慰問
五日 茨城県慰問
二十日 第二十一回夏祭り・花火大会
二十九日 岩手県慰問

八月

六日	福島県慰問
九日	秋田県慰問

《九
月》

六日 楓会発会七十三周年慰霊祭
十三日 敬老の集い

ティーナ・カリナ

二十六日

「ひとり昭和歌謡祭」
第二十一回寛仁親王妃杯女子
コスモスゲートボール大会
(二十五チーム参加)

令和元年12月10日 印刷
令和元年12月20日 発行

行集刷

東北新生園楓会(自治会)
楓 会 文 化 部
川 内 印 刷 株 式 会 社

〒989-4601

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十一巻第四号……………目次

表紙…「秋の風景（紅葉）」

振り返れば……………	事務長……………
お世話になった皆様へ……………	一般作業療法主任……………
皆様への感謝の気持ちを込めて……………	看護師長……………
新生園での思いで……………	副看護師長……………
	佐藤美栄子……………
	（10）

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者……………
短歌……………	佐々木……………
俳句……………	皆川……………
川柳……………	選者……………
よろしくお願ひします……………	山田……………
よろしくお願ひ致します……………	石田……………
台風十九号……………	佐藤……………
初めまして……………	鈴木……………
四コマ漫画……………	看護師……………
園内日誌・謝寄贈図書……………	北村……………
	小蝶……………
	（30）
	（27）
	（24）
	（22）
	（20）
	（18）
	（16）
	（14）
	（12）

振り返れば

事務長 細川 一人

「明日に向かって撃て！」好きな映画です。私自身は、特別に映画ファンでもないし、西部劇ファンでもないのですが、この映画は心に残る映画です。

アメリカン・ニューシネマの代表作の一つとされ、ラストシーンは映画史に残る屈指の名シーンとして知られており、権威ある映画賞も受賞した作品です。

往年？の名優と言われるポール・ニューマン、ロバート・レッドフォード、キャサリン・ロス主演。舞台は一八九〇年代のアメリカ西部、銀行や列車強盗を繰り返す二人組が追っ手に追われながら、夢の土地南米ボリビアへとたどり着くが最後は？というストーリーで

す。

この映画が何故名作かは、一説では当時の西部劇では「主人公が逃亡する」という発想はなかったようで、当時の評論家たちの「想定内」から大きくはみ出したストーリーと主人公たちの人間臭さがアメリカン・ニューシネマの傑作となった要因でもあるとも言われているようです。

映画はともかくとして、十年ひと昔と言いますが、十年も経てば世の中の価値観や意識またハード的にも大きく変わります。

私が勤め始めた頃は、前の人の仕事を真似て仕事をするように教わり、上司の命令に従って仕事をこなしていました。また、パソコンなどという事務処理器械もありませんでした。時代も大きく変わり、今では法令的なところは守っていかなければなりません、各人の個性を持った自由な発想が、仕事を進めるうえでの重要なファクターとなっていると思います。

先入観に捕らわれない自由な発想が、目の前の難問を解決してくれることもあると思います。

時代は移り変わり、価値観も変わってきている中で、時の流れを掴むのは並大抵のことではないと思いますが、その流れを感じながら、自由な発想をしていかなければ、良い仕事や時代にマッチした仕事は出来なくなってきたと実感しています。

解決しなければならぬ問題は直ぐにでも解決していかなければなりません、現在では八方ふさがりの問題も、次世代の発想では「朝飯前」の感覚で解決できる日も来るかもしれないですね。

職場内のそれぞれ自由な発想をまとめることで、より良い成果が期待できると思いますので、知恵を出し合って皆さんに貢献できる仕事をしていきたいものです。

私が東北新生園に赴任してから早いもので二年九ヶ月が過ぎ、いろいろと経験をさせて

いただきました。

他の園もそうだと思いますが、東北新生園にもたくさんの方々の行事があります。

観桜会、春秋のバス旅行、春秋のゲートボール大会、夏祭り・花火大会、敬老の会、パネル展・屋台祭り等々で入所者さんと楽しく過ごすごうができました。

中でもゲートボール大会では選手として参加させていただき、ゲートボールとは見ていると簡単そうですが、実際に頭を使う競技だとつくづく感じたところでした。

また、バス旅行では、春の海・秋の山と一緒させていただき入所者さんの笑顔と間近に接することができ、いろいろと昔のお話をお聞かせいただき、ハンセン病・東北新生園の歴史も勉強させていただきました。

一方、東北新生園の将来構想については、集約化も自治会長のお力で他園よりは進んでいると思いますが、地域への解放や交流は思うようには進んでいない状況であります。こ

れからも関係機関とは鋭意協議を進めてきかなければならない現状は、自分の力のなさを実感させられるところで、これからの重要課題として取り組んでいかなければなりません。

一方、「千本桜の里」は、今でもきれいな桜が見られますが、あと数年もすればもつと立派な公園となることと思います。これからがもつと楽しみですので機会あることに訪れたいと思っております。

赴任時には、歴代の諸先輩方が築かれてきた信頼関係や東北新生園の過去・現在・未来からの歩みをうまく引き継いでいけるの不安もありましたが、自治会長・園長はじめ皆様のご厚意をいただきながら、自分なりに精一杯やってこれたのかなと思えます。

東北新生園の歴史の中で見ればほんの一瞬ではありましたが、皆様と同じ時間を過ごさせていただいたことを感謝すると共に、入所

者の皆様がこれからも楽しく安らかに暮らしていけますよう、微力ながらお手伝いしていければと思っております。

私は医療関係の仕事に就いてきて、来春定年を迎えますが、最後に東北新生園で今までにない貴重な経験をさせていただきました。

ありがとうございました。

脈絡の無い文章となりましたことをお許しください。



お世話になった皆様へ

一般作業療法主任 本間 俊次

私も三月には定年を迎えます。通算七年間入所者の皆様及び職員の方々には大変お世話になりました。本当に有り難うございました。その七年間の勤務で感じたことは、入所者の皆様の高齢化です。お世話になった皆様の転倒を予防し、皆様が今後も健やかに過ごされるため、転倒事故の予防について書かせていただきます。

転倒は高齢者に限らず、だれにでも、いつでも、どこでも起こりうるものですが、高齢者ほど転倒の数、転倒による外傷、骨折の重傷度は増していきます。転倒時に見られる怪我は頭部外傷、手首の骨折、背骨の骨折及び大腿骨頸部骨折などです。高齢者の大腿骨

頸部骨折は、治療が長引けば寝たきりになり、さらには認知症が進んでしまうケースが多く見られます。それではなぜ高齢者は転びやすいのでしょうか。人は年をとるにつれて、筋力、反射、バランス能力、視聴覚機能などの身体機能が重複して低下するため、転倒しやすくなります。また、病気が影響することもあります。例えば心臓の病気などで、血圧が急に低下したり、不整脈が起こることが原因で転倒することがあります。白内障や緑内障などで物が見えにくくなった場合も転倒しやすくなります。睡眠薬や降圧剤、抗不安薬、糖尿病治療薬など薬の影響でふらついて転倒することもあります。高齢者の転倒は屋内でよく起こります。筋力が低下すると、「うつむき加減」「ひざが曲がつている」「スリ足」など、転びやすい歩き方になりがちで、これまでつまづくことのなかった、わずかな段差でもつまずきやすくなります。ところが本人は、そのことに気づいていないことがよくあ

ります。住み慣れた居室にも転倒の危険があることを理解し、住環境を見直して、できる範囲で改善しましょう。例えば、読みかけの新聞や雑誌、脱いだ衣類などが放置されていると、転倒の原因になるので、片付けるようにしましょう。また手すりを付けたリ、段差を解消することも大切です。転倒は自然に発生するものではありません。転倒には原因があり、対策をたてれば防ぐことが可能です。転倒を予防するための注意点をいろはカルタ風にまとめてみました。この中の内容を一つでも二つでも実践していただき、転倒予防に役立てていただけたらと思います。

転倒予防のいろはカルタ

い 急がず、慌てずゆっくりと
ろ 老化は急に止められない
は 履き物は自分の足に合ったもの

ね 寝たきりにならぬための転倒予防
な 泣かぬようにいつも転ばぬ心がけ
ら 楽に動ける体を作ろう。日々の運動一、二、三
む 無理のきかない年齢自覚
う 運動で筋力、バランス維持しよう
ゐ 井の中の蛙運動不足、部屋を出てレクや訓練しよう
の 残った人生転ばず元気
お 起きてすぐ踏み出す歩気を付けて
く 薬の作用理解して注意事項を厳守する
や 夜間のトイレ無理せずコール
ま まだ大丈夫。思っているのは自分だけ
け 決して転ばぬ自覚と対策
ふ 普段から体動かし軽い足取り
こ 転ばぬ先の手すりや杖
え 遠慮せずコールを押して安全第一
て 転倒予防は寝たきり予防
あ 「あわてない、あわてない」一休さんの

に 二度あることは三度ある。

念には念の倒予防

ほ ホントに怖い転倒骨折、寝たきり、痴呆の原因に

へ 部屋の中、つまづく原因探してみよう

と トイレまで短い距離でも危険あり

ち 散らかった部屋に潜む事故原因

り 利用して筋力アップ、レク（レクリエーション）や訓練

ぬ ぬかりなし、転ぶ前に手すり付け

る 類似する原因がある転倒事故

を 老いては介助が必要なことも

わ 和式の生活、洋式に変える時期も念頭に

か 介助の利用、転ばぬための良き作戦

よ よく見えない、視力の衰えつまづく原因

た 体調の日々の変化に要注意

れ レク（レクリエーション）で楽しく体力作り

そ その段差いずれつまづく原因に

つ 強い骨作るためのカルシウム

言うとおりに

さ 散歩で維持する歩行能力

き 気づかぬうちに転倒予備軍仲間入り

ゆ 床の上コードや衣服を整理して通る所はすっきりと

め 目覚めてすぐの一步が危険

み みんなで目指そう転ばず百歳

し 深夜でも遠慮はいらないトイレの介助

ゑ 喜びす顔、笑顔で暮らす転ばぬ工夫

ひ 暇を見つけてこまめな運動

も もし転んだら怪我や骨折すぐチェック

せ 整理整頓床の上、転ばぬための良い習慣

す スリ足は小さな段差でつまづく原因

ん！これで転ばぬ対策万全なり

皆様への感謝の気持ちを込めて

看護師長 山 田 裕喜江

私は平成二十五年四月に、故あって、花巻病院より、東北新生園に看護師長として着任しました。それまで、ハンセン病については看護学生の時に、多磨全生園で施設見学をさせていただきましたが、以降、看護に携わらせていただく機会はありませんでした。私の看護人生の中で、七年間ハンセン病の入所者の皆さんと関わる事が出来た時間ははとも貴重な時間でした。

東北新生園は、春は桜、夏は花火、秋は紅葉、冬は雪景色と四季を肌で感じる事ができ、大変恵まれた環境で勤務させていただきましたことを毎年楽しみに感じておりました。春と秋には、

送っていつていただきたいと思えます。

以前、一人の入所者の方が、「昔、海に魚釣りに行っていた。また、海に釣りに行つてみたいなあ」とおっしゃいました。昔、自由に出かけていた頃のように出かけられなくなった高齢の入所者の皆さんが外に出かける機会は減少していました。楓会と幹部の方々が話し合い入所者の皆さんの思いを尊重し、三カ月には一回、園の車で送迎していただき、園外に出かける機会を作っていたことが可能となり、今では、毎月園外へ出かけることが出来ます。皆さんと出かけた初回の内沼サンクチュアリーセンター見学、バスの中で久しぶりに外に出かける入所者の皆さんの生き生きとした嬉しそうな表情が今でも思い出されます。

今後、入所者の皆さんが心から望んでいることを言葉にさせていただき、それが一〇〇

近隣の方々との親睦を深める為の大切な機会であるゲートボール大会が開催され、参加させていただきました。なかなか上達することはできませんでしたがチームのみんなで力を合わせ一勝できた時のうれしさは忘れることができません。また、参加者の方々から、昔、新生園の方に大変お世話になりましたと涙を流しながら話されたこともあり、昔からの入所者のみなさんと近隣の方との大切な繋がりが皆さんの優しさを感じる機会もありました。私は当時より今日まで第二メーブルケアセンター・治療棟で勤務させていただきました。当時は入所者の皆様も大変お元気で、身の回りのことも自分で行うことが出来ましたが、お年を重ねる毎に職員の支援を必要とする方が増えてきている状況となっています。自分のことは自分でしたいという気持ちを持ち続けることは大切だと思います。今後も職員とよく話し合いながら、お元気で安全に生活を

パーセント実現できなくても、職員の皆さんと話し合いながらそれに近づけられるように、入所者の皆さんの満足に繋がってほしいと思います。

私が、今こうして職責を全うし、定年退職を迎えられるのは、入所者の皆様、職員の皆様・家族のおかげです。

終わりにりましたが、入所者の皆様が今後も穏やかで健康な日々を送っていただけますように、職員の皆様のご健勝とますますのご発展を祈念しております。

お世話になり、ありがとうございました。

新生園での思いで

副看護師長 佐藤 美栄子

三月に定年を無事に迎えることになり、入所者様始め、いろんな方々にお世話になりました。私は子供がまだ小さい時に一カ月間の代替として勤務させて頂きました。その後、二カ月後に賃金採用で再度勤務させて頂いた。くことになりました。久しぶりの新生園でした。「ちゃんとして務まるのか」「やっていけるんだろうか」と不安と緊張感で門を通りました。その反面少し懐かしさもありました。私は高校卒業後、母の勧めで新生園にあつた准看護学院に進学しました。二年間の学生生活は初めての寮生活、厳しい規則の中でのいろんな初めてを経験しました。寮では先輩、後輩の団体生活で、今まで経験した事のない

ルール、一番印象的だったのは冬の寮生活は大変でした。十畳位の部屋に三人から四人の学生が生活していました。学校が終わり寮に戻ると寒い部屋の暖房と言えば、部屋に一つのコタツのみでした。夜の七時、九時までは学習時間でした。一人一人に小さい座卓があり、そこで勉強しなければなりません。寒さしのぎでみんな実家から持ってきた毛布にくるまり勉強しました。学生寮は木造の二階建てで、古いため隙間だらけで風が吹く度に窓は揺れ、玄関はスムーズに開かず、雪が当たると凍ってしまい、いつかそのうち寮は壊れるのではないかと心配でした。室内なのに手も足も凍るくらいの寒さでした。九時からの三十分は洗濯や歯磨きテレビを見たい時はその時間だけ教員の官舎の近くの部屋で見ることができました。他の人はおやつタイムです。十時になると消灯になり、コタツのコードを束ねて廊下に出さなくてはいけませんでした。時間外にコタツを使わないため、寮長が各

部屋の前にコタツの差し込みのコードが出ているか点検していくのです。隠れて電化製品など持つてくる人がいると厳重注意でした。テスト期間中でも消灯は十時でした。消灯後に勉強しなくてはいけない時は早めに廊下の非常灯の下に場所をとるか、懐中電灯、なかには口ウソクで勉強していた時期もありました。私は今のこの時代に口ウソクで勉強しなくてはいけないことにびっくりしました。実家に帰るといつまでも電気が使えたり、好きなくらいテレビを見たりする事のありがたみを感じたものです。准看護学院を卒業し、神奈川の学校に進学しました。今までの厳しい寮生活から解放され、勉強もせず毎日毎日エンジンジョイした生活を今は懐かしい思い出であります。

新生園に努めるようになり学生時代を過ごした寮は見る影もなく更にぼろぼろで、いつしか取り壊されなくなっていました。学生が使用していた食堂も綺麗になり、職員の方の

食堂に変わっていました。

賃金採用で勤務してから二十五年以上働いているうちに、小さかった息子たちも結婚し親になり、いいおやじに成長しました。正直健康で定年まで勤める事ができるとは思っていなかったが、**「定年」**と言う言葉を聞いても実感がわかない今日この頃です。

入所者の皆様、職員の皆様にはいろいろ教えて頂くことも多々ありました。いつも温かく見守って頂き本当に感謝の気持ちでいっぱいです。仕事でつらい時も、入所者様から「元気がないな」休みで会わないと「しばらく顔を見ないけどなにかあったのか」と心配され、勇気づけられてまた明日も頑張ろうとパワーをもらう事が私は今でも多いです。

入所者の皆様、これからもお体を大切に、毎日、自分らしく笑顔で過ごして下さい。ありがとうございました。

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《雪》

今 野 きよし

雪々の毎日
今日も雪
細かい雪が
休みなく
雪を眺め
溜息ばかり

野も山も
降り止まず
風に吹かれて
ベランダに
雪が舞い込んだ
厚さにすれば
ほんの五センチ
身の回り
雪のほかには
なんにもない
雪におおわれ
真白になって
電柱半分
白く立っている
建物は
コンクリだから
しゃんとして

雪の世界に
囲まれて

雁が行く
雪の中
目指して行くは
大崎耕土
餌を求めて
蕎麦地

【選 評】

《雪》

今 野 きよし

雪のある世界をしっかりと描写した力強さを感じます。大崎耕土を目指し飛んで行く雁の捉え方が大胆で、インパクトが残る作品。



短歌

皆川二郎選

◇入選◇

今野 きよし
煌々と月の光りの冴え渡りわが家の前に止まりて見ゆ

【選評】

猛暑の夏が過ぎて、秋になってくると月の光りも澄み渡り、夜空を見上げていると心まで爽やかになってくる。それを見上げていると住居の前に止まっているように感じられるという心の静けさも感

じられます。

今野 きよし
裏山の豊かな森に蝉の声朝な夕なに聞き過せり

【選評】

蝉の声を朝夕に聞きながら、裏山の豊かな森を眺めている作者の姿が想像されます。猛暑の夏とはいつても夏の蝉の声がなかったら何となく寂しいものであろう。自然と共に生活している日本人にとって四季折々の変化の中でこそ人間らしく感じられるのではないのでしょうか。

今野 きよし
親と子は何ゆえ問題絶えぬのか親子でなければ平和な二人

【選評】

前二首とは違い、微妙な親子関係に焦点を当てている。一首の根底にあるのは、それぞれを思う親子であるからこそ受け取りたい。親も子もそれぞれの違った立場にて心配しているからこそ問題もあるのでしょう。問題があることをお互いに理解している幸せを感じたいものです。

次に内容の違う気配りの三首を佳作として選んだ。

◇佳作◇

今野 きよし
旅に出ることは知らずにお土産の届きて友の気配りうれし
朝刊を配りて行ける配達の若さみなぎる靴音高し



リハビリの治療を終えし老い二人無言のままにわれを迎えぬ

俳句

山田桃晃選

◇入選◇

刻々と季節は移り雁渡る

今野 きよし

【選評】

刻々は一日を十二支にわりあてて分けた時刻。要するに時の流れ移り変わり季節の移り変わり、木々は色づき雁渡しと言う風に乗って、渡って来た群れは、湖沼や海辺などに下りて食物を漁りにゆく景が雄大である。

◇佳作◇

今野 きよし

ぼんやりと外に目を向け秋の雨
見たくなる話に引かれ月見かな
足に合う靴揃えけり秋つばめ
晩秋の日差しを浴びて読書かな

斎藤 照雄

伊豆沼へにぎわいもどす冬の使者
軒の下にどなたのわざか栗一つ
狂い咲くつつじに今日も人の山
花すすき刈り残されて野に一本



こぼれ合う草の実国境など持たず

斎藤 照雄

【選評】

草木類の結実するのは秋に限ったわけではない、秋が一番多いのである、国には境があるが草の実には国境などあつては繁殖がにぶる、人間や動物に付着し、又は羽のあるものも有り風に乗って結実する秋芋の様にこぼれて生きる喜び有り。

翠巒の季節は去りぬ草紅葉

今野 きよし

【選評】

緑一色の刻は長丁場、若葉は木々によつて違うが目にしみるような光景、晩秋ともなれば山野の草々はさまざまに色づく、樹木の紅葉と違った静かな風情草の錦である。

川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《人位》 今野 きよし
夕暮れに弓矢のように雁戻る

【選 評】

「雁」は詩歌に多く使われている。季語は秋だが、「帰る雁」だと春の季語になる。中七を「弓矢のように」と直喩法にして、「雁戻る」と止めている。人間を詠う川柳として、帰宅を急ぐ人の姿として鑑賞したい。

《地位》

福耳と言われ一番先に病み

桜山南仙

【選 評】

福耳と言われる福耳。にもかかわらず、誰より先に病気に罹る。この矛盾を衝いた作品である。中七から下五にかけての句跨がりの作品だが、ユーモアたっぷりの作者らしい一句。

《天位》

まんまるい地球の中で人がもめ

斎藤照雄

【選 評】

丸い地球の住人が争いをする、おかしいではないかと言う風刺をこめた一句。文明の発展も極みにある世の中で、社会不安は増すばかり。エゴを剥き出しが自由とか人間解放ではない。人類は末期症状かも。

◇ 佳 作 ◇

長沼蓮花
増税で反比例するはず体重計
ふくよかなサンマと目が合いヒモゆるみ
学び舎の子らを見守る金木犀

今野 きよし

子煩惱こぼれる笑顔豊の秋
馬鹿だった余計な口を多くして
なにげない顔でポイント逃さない

桜山南仙

独身のナースに山が笑いかけ
代筆のペンともなればかたくなり
車椅子あきずに押して詩になり



斎藤照雄

人生はどこへ行っても泣き笑い
太陽に背をむけ歩いたおろかな日
母いつも風邪をひくと言う便り

よろしく願います

看護師 佐藤 智子

今年の四月より、第一メーブル二階でお世話になっております、佐藤智子と申します。どうぞよろしくお願いします。

私は、登米市東和町で生まれ育ちました。看護学校も県内でしたので、宮城県から出たことがあります。二十代の頃、勤務していた病院に入院していた子供のお父さんに「看護婦さんって、わざと訛ってんでしょ？」と言われたことがあります。普段通り話をしていただけだったのに・・・と若かった私はかなり傷つき今でも忘れられない思い出となっていました。

子供の頃は今同様、肥満児で運動神経は悪かったのですが、夏休みには午前午後とプー

す。知っている人に会うのも恥ずかしいので帽子を被ることもあります。万が一、見掛けでも見て見ぬふりを頂けると幸いです。

新生園の敷地内を散策したいと思いつつ、半年が過ぎてしまいました。私の苦手な夏が過ぎましたので是非、実行してみたいと考えています。どうか熊には遭遇しませんようお願いばかりです。

まだまだ仕事覚えられず、周りの方々にご迷惑ばかりお掛けしていますが皆さんに優しくご指導頂いています。また、入所者さんとの会話にいつも元気を頂いています。人生の大先輩との会話は勉強になること、教えて頂くことも沢山あり、そして、ユーモアあるお話しにお腹の底から笑わせて頂くこともあります、私の元気の源となっています。微力ながら皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。



ルに入り、夕方は暗くなるまで外で遊んでいるような子供でした。私が住んでいた家は病院の直ぐ裏にありました。近所の子供達と一緒に病院のゴミ捨て場に入り込み、散乱しているゴミの中から注射針や注射薬が入ったガラスのアンプルを切る、ハート型のアンプルカットを見つけては「宝物」と称し、秘密基地に隠すという、いかにも子供が考えそうなくだららない遊びをしておりました。今、考えるとむき出しの注射針を指などに刺さらないで良かったと思うと共に、なんて危険な遊びをしていたのだらうと恐ろしくなります。

現在の生活のことにも触れたいと思います。子供三人は社会人となり家から離れ、夫、犬と暮らしています。犬は何より散歩が大好きです。自分の体調が良い時は（時々、あちこち痛みます）散歩に出かけます。夜に行くことも多いので車の運転手さんの迷惑にならないよう蛍光色のたすきを掛け、首にはタオル、ライトを下げ何とも怪しい格好で歩いていま

よろしくお願い致します

看護師 鈴木 浩子

今年の四月から第一病棟に勤務しております、鈴木浩子と申します。どうぞよろしくお願い致します。

自己紹介をさせて頂きます。出身は栗原市です。栗駒山を遠くに望み田畑が広がるのかな所で育ち、高校まで地元で過ごしました。卒業後は親に甘える気持ちに影響してか、実家からさほど遠からず近からずに位置する一関市で看護学生時代を送りました。親元を離れて過ごした学生時代はホームシックになる事もありましたが、岩手の言葉は温かく、また友人や先輩との語らいなど楽しく過ごした思い出も多く、一関市は第二の故郷だと思っ

たというのに未だにどこに何が位置しているのか分からないような有様です。スタッフの方々から東北新生園が自然に恵まれていて、ライトアップされた桜の木の見事さや花火が素晴らしいと伺いました。機会があれば、敷地内を散策し、来年はゆつくりと桜の木や花火を観たいと思っております。

入職当初よりスタッフの皆様の御指導やサポートを頂きながら、日々頑張っているところです。年々覚えも悪くなり、気持ちにも余裕がなく、中々新しいことが吸収できず自分自身情けなくなることもあります。まだまだ不慣れで至らないことも多く、皆様にはご迷惑をお掛けしていると思います。一つ一つ覚えながら、入所者の方々にも信頼されるよう日々看護を行っていきたいと思っております。ご指導方々、どうぞよろしくお願い致します。

ています。

その後、仙台市内の民間病院で勤務していましたが、歳を重ね次第に地元への郷愁が強くなり栗原市に戻りました。そして結婚を機に大崎市に移り現在も大崎市で暮らしています。嫁いでから家の近くの風景は十分変わりました。子供とザリガニを捕まえた用水路はコンクリートになり、いつの間にかトンボの姿を見ることがなくなり寂しい限りです。子供が小さい頃は日帰りで温泉によく出かけたのですが、しばらく温泉に行っていないので、そのうちゆつくりと温泉に浸かりたいと思っています。

子供も成長し、ふと気付けば人生の折り返しを過ぎていました。今回、ご縁があり東北新生園に参りました。東北新生園については、ハンセン病の療養所であることは知っておりましたが、来てみるとその広大な敷地と広い建物に驚きました。働いてから六か月も過ぎ



台風十九号

看護師 飯塚光枝

今年四月から第二メーブルセンターでお世話になってゐる飯塚光枝と申します。新生園に勤務する前は、宮城県立循環器・呼吸器病センターに勤務しておりました。循環器内科・心臓血管外科、呼吸器内科・外科、感染制御病棟など経験してきました。術後看護や心肺停止状態の救急看護も経験し、記憶をたどると壮絶な現場が恐ろしくもあり、懐かしくも思え、あの現場でまた働きたいと思う気持ちも複雑にどこかにあります。人の命と向き合いながら無我夢中で突っ走って仕事をして来た気がします。そんな循環・呼センターも今年四月に、栗原中央病院へ移管する事になりました。年齢や体力的なことを考え退職を選択

しましたが、それでも看護師としての職業はまだまだ続けたいという思いもあり、新生園に再就職という形でお世話になる事になりました。どうぞよろしくお願い致します。

新生園へ就職し、半年以上が過ぎ仕事にも慣れてきたころ、忘れもしない十月十三日台風十九号直撃、栗原レベル警告四を報告された日、私は、準夜勤務でした。仕事中は雨の音も風の音も全く聞こえず、一般療からセンターへ待機して頂いた、二名の入居者の方もおり安心して静かな夜間を過ごしていました。仕事を終え、自宅へと向かいました。警告通り大雨と突風でした。自宅までは十分位の通勤路であり、とにかく早く帰ろうと車を走らせました。道路には、山からの流れる泥水や小石が多かったのと、大雨のためワイパーは全開にしてもあたりは真っ暗で一寸先もよく見えず、不気味さも感じました。それでも自宅はすぐそこと平穩で運転していました。ところが、自宅までの距離の中間地点ほど

行つた平坦な道を走行中、水溜まりかと思つた瞬間、急に車が浮きました。そのまま車は、ゆっくりとフワフワ二回転程回り走行と逆向きに止まりました。足元からは、水がジワジワと入ってきてたちまち腰までの水嵩になりました。そのうちエンジンも止まりました。まさかこんなところで、危機感を感じた時はすでに濁流に車ごと流されていました。もちろんドアも開きません。携帯電話を探す手も震えなかなかつからず、それでも自分に「落ち着け、落ち着け」と言い聞かせ、夫に助けを求めました。電話中にもまた車がフワフワと同じように回転しました。一か八かで窓を開けてみるとかろうじて窓が開き脱出。外に出ると腰上まで水嵩があり水圧も強く車に掴まつていないと体が浮いてくる状況でした。車の前に移動するのにも水圧が強くやつとの事で、ボンネットに上がりました。あたりは真っ暗闇ではありましたが、道路沿いに民家があり、その家も浸水状態で道路と家の

栄えもわからないほどの水嵩でした。田んぼからのあふれ出た水がその家を押すように、濁流となり道路へかなりの水圧で流れてきていました。大雨と突風で、聞こえないだろうと思ひながらも「どなたかいませんか、お願いします。助けてください」と大声で何度も叫びました。もちろん民家の方も手も足も出ない状況も理解は出来ましたが、かろうじて気付いてくれたようで「いまレスキュー呼んだから、頑張つて」と何度か声をかけて頂きました。夫も直ぐに駆けつけ危険も顧みず、腰上まである濁流に身を任せながら私のところまで来てくれました。一度は車から離れ二人で歩いてみましたが、水嵩もたちまち胸までと上がり、水圧で体が浮きとても歩くこともできませんでした。民家の方にも「動くな危ない、今レスキューくるから」と声をかけられ、とにかくレスキューを待つしかない。また車に掴まりました。大雨、突風は止むことなく大荒れ。稲わらや木、ごみなどが体に

あたるあの感触を覚えています。そして二人とも寒さに辛くなり低体温状態で、体が震えだしました。そんな壮絶の中で思うことは死です。そんな思いの中でも、夫へ申し訳ない気持ちでいっぱいでした。私を助けに来てくれた夫まで命を落としたらあまりにも悲惨だと思わずにはいられませんでした。訳を言わず何度も夫へ謝り続けました。五分もあれば着くはずのレスキュー隊もなかなか到着せず、後から聞いた話では、とにかく近場の道が全て水没しており通れなく遠回りしたとの事でした。私は車のボンネットの上、夫は車の前で水に浸かったままで、とにかくレスキュー隊を待ちました。そのうち私は声も出せなくなり体に力が入らなくなり、意識も朦朧となつて来ました。何度も夫に声をかけられたのを覚えています。水嵩も徐々に増していく中、レスキューのサイレンが聞こえた時は安堵感の何物でもありませんでした。そして、ゴムボートでの救助も濁流の水圧で難航しま

したが、無事に救助されました。救急車はその場所に入らずレスキュー隊の車で病院まで、低体温状態のため救急搬送となりました。病院についたのは午前三時過ぎでした。まさしく九死に一生でしようか。車ごと流されたときの状況は、よく見るテレビの中の再現ドラマそのものでした。直ぐ目の前の田んぼに車ごと落ちて沈んでいたとか、二人で歩こうとした時濁流に足をとられそのまま流されていたらとか、いまだによからぬ思いだけが身を振るい立たせます。夫が乗ってきた車も結局水没し二台の車が廃車となりました。それでも二人の命が救われた事は、不幸中の幸いとも思われます。民家の方の励ましやレスキュー隊の献身的な救助にも本当に感謝の気持ちでいっぱいです。災害は突然やつてくるという言葉は本当だと実感しました。生きていくには、何事にも気が抜けないですね。

初めまして

看護師 高橋 由美

平成三十一年四月より第一メープルケアセンター一階でお世話になっております。高橋由美です。どうぞよろしくお願いいたします。

少し私の話にお付き合ってください。私は東和町という山の中から、縁あって南方町という平野に嫁ぎ早数十年、実家で過ごした年数などいつの間にかあつという間に過ぎ、少しもの悲しさを感じています。子供の頃は、雪で覆われた足跡のついていない畑を走りまわるのが大好きで、手足、ほっぺ、しもやけで大変な思いをしていました。今では寒いのが苦手になり子供の頃はなぜ平気だったのか、不思議ではありますが、それが年月の流れと

いう事でしょうか。

両親は自営業で忙しく私の遊び相手は祖母でした。祖母は私が高校受験の日に亡くなりました。社会の試験中に祖母の声を聴き、それが何を意味する事なのか、自宅に帰った時たくさん車の車が止まっているのをみて悟った記憶があります。気仙沼の病院に入院していた祖母へのお見舞いは、受験が終わり次第行くはずでした。祖母のために何もできなかった後悔の気持ち、看護師という仕事を意識させるようになったと思います。

看護学生時代は気仙沼で過ごしました。親元を離れての寮生活は門限・消灯・入浴時間など決まりがあり、時間に追われることもありましたが楽しいものでした。自炊だったのでグループを作り担当制で食事の準備をしました。食事で忘れられないのは友人が作った肉じゃがです。なんと炒めただけのもので、じゃがいもも人参も生状態でした。ガリッと

いう音がするじゃがいもを始めて食べた瞬間でした。その肉じゃがを食べ続けたかどうか今となっては定かではありません。手話サークルに入りサークルの仲間とキャンプをしたり、旅行をしたり、勉強より他のことが楽しかったという思い出ばかり思い出します。一つだけ衝撃だったのが解剖です。夜、寮に響く一本の電話、「これから解剖をするので、一年生は見学に来るように」という連絡が、解剖学を担当していた医師から入ったのです。見学は確かに勉強になりました。

しかし、部屋の外に出ると遺族の方々が終わるのを待っていたのです。感謝の気持ちと同時に申し訳ない気持ちが沸き上がり、とても複雑な感情になったことは忘れられません。あの時だけは「なんでこんな職業選んだのか、選ばなければこんな思いはしなかったのに」とやるせない気持ちで一睡もできなかったことを覚えています。そんな三年間を過ごした気仙沼が二〇一一年の震災で、私が

知る気仙沼とはかけ離れた景色になってしまったことが悲しいことですが、同級生たちが元気にたくましく生きていることを知り、逆に私が励まされております。

さて看護師として近隣の病院で働き、長い年月を過ごした病院を辞め、四月から新天地となる新生園でお世話になり、もう半年が過ぎました。一つの所しかわからない、それが当たり前と思って働いてきた私にとって、初めての施設は不安がありました。どこであつても看護に違いはないと思い飛び込みました。病院勤務時代は、これからは医療と介護の連携が大切になると謳われていましたが、ここはもうずっとそれを実践しているところだと実感しました。

入職してもう半年も経つのになかなか物覚えが悪く、皆さんにご迷惑をおかけしています。毎日何かしら、やらかしているように思いますが、スタッフの皆さんには、とても親切に教えて頂いています。まだまだ猪突猛進

の眼しか持っていない自分に腹が立つことも有ります。俯瞰的な視点をもつて業務にあたるにはまだしばらくかかると思いますが、懲りずにご指導いただければと思っています。今後もしよろしく願います。

第21回 寛仁親王妃杯女子コスモス ゲートボール大会

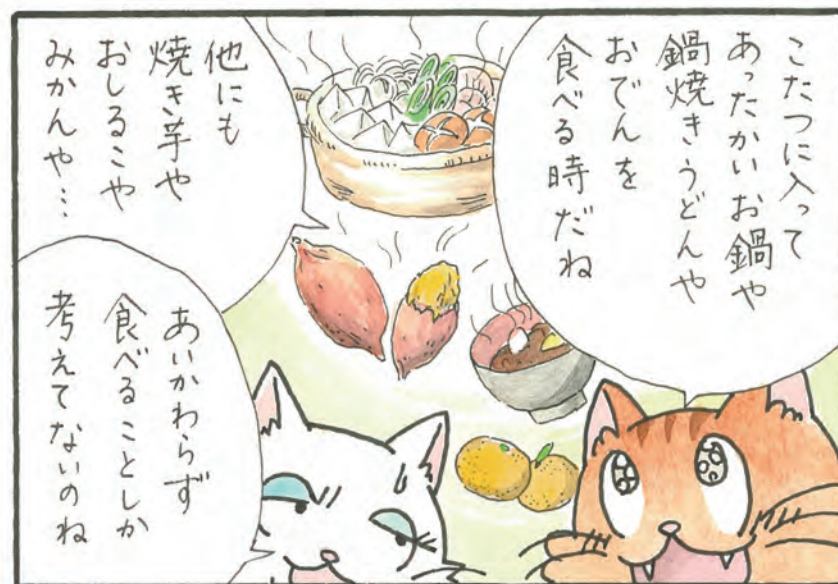


選手宣誓
昨年優勝 一迫真坂チーム



今回優勝 志波姫宮中チーム

北村小蝶

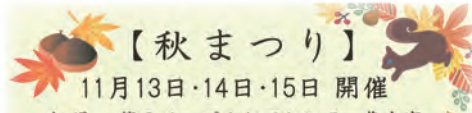


4コマまんが

冬






【秋まつり】
 11月13日・14日・15日 開催
 会場 第2メーブルケアセンター集会室
 紅葉ライトアップ期間
 11/5(火)～11/17(日)
 しんせい茶房 
 11/13(水) 午後1時から午後3時まで
 抽選会・屋台出店 
 11/14(木) 午前10時から午後3時まで
 藤乃雀扇「すずめの会」
 11/15(金) 午後1時45分から
 午後2時30分まで 
 ※ 東松島市で、ボランティア活動をして
 いる藤乃流の名取 藤乃雀扇さんが、
 さまざまな踊りの愛好者で組織する
 「すずめの会」の皆さんと多彩な
 舞台を披露して下さいますので
 ご覧下さい

